

隼一居送給候、

(現代語訳)

御懇志之儀令祝

隼ひとすえを一居送ひとすえってもらい

着候、随分泌蔵

そうえ もんよしかた
(宗右衛門吉堅の)心遣いを喜ばしく感じ
た。

可仕候、猶佐々木

(いただいた隼は、今後も)大事にしていき

豊前守可申入候、恐々

たい。なお、佐々木豊前守からも話がいく

謹言

であろう。恐々謹言。

吉又次郎

十二月十二日 広正(花押)

(殿力)

村上宗右衛門□

御宿所